

●文部科学省 平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム●

地域とゼミによる 総合的 キャリア教育



成田 憲彦
【学 長】

大学に対する国の財政支援は、大学の教員数や学生数などの客観的基準に従って一律に配分される助成金から、大学が創意工夫によって立てた企画を評価判定して、優れたものに資金配分を行うといういわゆる競争的資金に切り替わりつつあります。文部科学省の「国公立大学を通じた大学教育改革支援プログラム」は、そのような競争的資金の代表的なものであり、駿河台大学としても、財政資金獲得の観点からのみならず、本学の教育改革努力に対する客観的な評価判定の機会として、これまで重視してまいりました。

その結果、支援プログラムのうちの「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(通称現代GP)について、既に平成16年度に「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」が採択され、実施しましたが、本年度(平成19年度)は更に「『駿大の森』百年協定による飯能活性化」と「ゼミと地域による総合的キャリア教育」の2件が採択されました。同一年度に新規に2件のGPが採択されたのは301大学中12大学に過ぎず、快挙と言ってもよいでしょう。企画やヒアリングへの対応など、採択のために尽力された関係各位には敬意を表する次第です。

このリーフレットで紹介する「ゼミと地域による総合的キャリア教育」は、これまで本学で実施していた全学年必修ゼミと、インターンシップ、更に平成16年度現代GPに採択された「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」で成果を上げた「地域の教育力」を活用して、本学が重視するキャリア教育としての総合化を試みたものです。キャリア教育は、本学に限らず各大学が方式や成果を競い合っていますが、本GPが本学のキャリア教育のグレードアップに貢献してくれるものと確信しています。

本学としては今後ともGPを重視しつつ、本学の教育の向上と個性化に努めていきたいと考えているところです。本リーフレットを通じて、多くの皆様が本学のGPにご理解を深められ、今後一層のご支援ご協力をくださいますことを、切にお願い申し上げます。



南林さえ子
【副学長】

駿河台大学では、開学以来「開かれた大学・地域に密着した大学」を目標として掲げてきましたが、それまでの取組を集大成した「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」が、平成16年度に文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されました。

このプロジェクトは平成19年度以降も継続され、その中核を成す「アウトキャンパススタディ」に加えて、キャリア教育科目及び4年間に亘る少人数のゼミナールとの連携を強化し、総合的な体制を整える形で発展させた本プロジェクト「地域とゼミによる総合的キャリア教育」は、平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(テーマ5:実践的総合キャリア教育の推進)に採択されることとなりました。

このプロジェクトのキーとなっているのは3本の柱です。

第一の柱は「アウトキャンパススタディ」であり、入間市中心市街地にある学外拠点「駿大ふれあいハウス」は、学生がまちをキャンパスに地域住民の方々とのふれあいのなかからコミュニケーション能力や社会性を学んで行くことができる場となっています。また、就業体験型のインターンシップA、理論実践型としてのインターンシップBを用意し、社会性を培い、かつ専門知識の現場での実践を行なう場を確保しています。

第二の柱は、アウトキャンパススタディで得た社会性やコミュニケーション能力を、自分自身の中に確固とした能力に定着させることを目的としたキャリア教育科目です。ここでは専任教員と地域人講師団が協働して学生を教育しています。

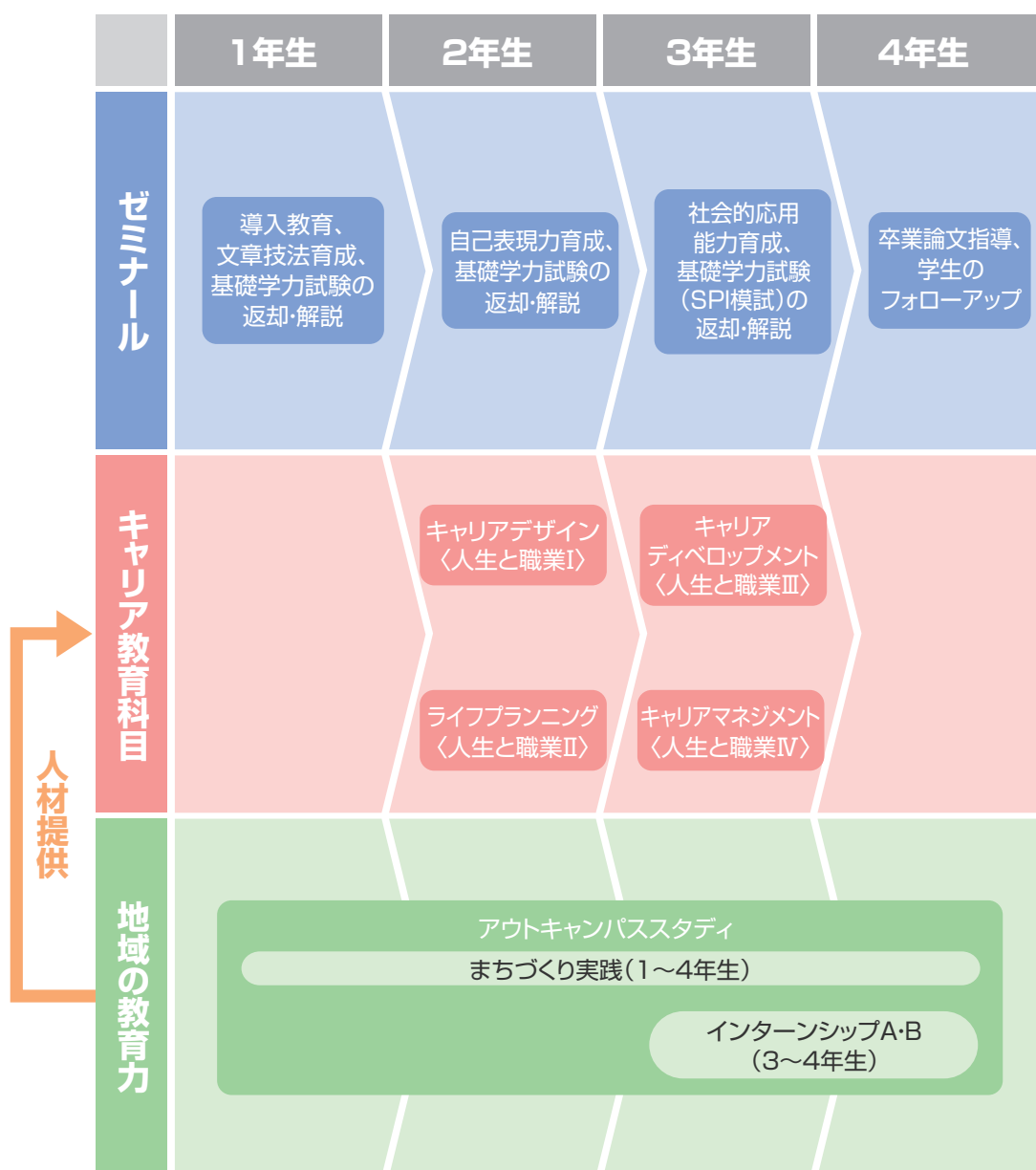
第三の柱は4年間に亘る少人数ゼミナールであり、入学直後の導入教育から、基礎学力・社会人基礎力の向上、専門知識修得に、教員が学生の発達段階に応じて指導を行ないます。

総合的キャリア教育実施という点については、大学の最大目標である学生の就職を念頭に、地域雇用の創造をめざす、地域雇用促進協議会開催が特筆すべきものといえます。この雇用への道が繋がっていることがこのプロジェクトの完結として意味を持っています。

取組の概要

1. 取組の概要図

「地域とゼミによる総合的キャリア教育」は、3つの柱、つまり、①専任教員が少人数ゼミナールによりきめの細かい指導を行なうこと、②学生の発達段階に応じたキャリア教育科目を展開すること、③地域の教育力によりアウトキャンパススタディを通じて社会性、コミュニケーション能力を涵養することから構成されており、その概要については下図のとおりである。



2 取組の概要

「地域とゼミによる総合的キャリア教育」は、第一に、まちを教室、地域住民を教師にしたアウトキャンパススタディを活用し、第二に、本学専任教員と地域社会の一線で活躍する人材から成る地域人講師団が協働するキャリア教育科目、第三には、全て本学の専任教員が担当するゼミナールを中心として、学生の能力の発達段階に応じたキャリア教育を体系的に行うものである。

(1) アウトキャンパススタディ

平成16年度に文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された「学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト」は、平成19年度以降も引き続いて継続され、その活動の内、次の①～④は「まちづくり実践」(2単位)として認定され、特段の専門性を必要とせず、子どもから老人に至るまでの異世代・多世代と接点を持つことを通じて社会性及びコミュニケーション能力を涵養することに寄与している。

①「駿大ふれあいハウス」の活動(主に1・2年次生)

パソコンクリニック(市民のパソコンのトラブル解決や使い方サポート)、子どもパソコンクラブ(小学生対象のパソコン教室。教材作成、授業等学生が自主的に運営)、中国語・韓国語しゃべり場(外国人留学生による市民との交流)



②子どもボランティア(託児施設などでの育児)

③祭りなどのまちおこしイベント等の企画・運営

④通学合宿サポート(地域小学生の通学合宿に1週間程度参加)

⑤インターンシップA(3・4年次生)

専任教員によるオリエンテーション、地域人講師団による事前授業を経て、地元地域企業、地方自治体並びにNPO法人にて、夏季休業期間中に2週間程度の実習を行い、ゼミナール担当者が実習先を訪問・視察する。実習終了後にレポートを提出し、秋学期に「地域インターンシップ報告会」で発表を行うことで成績評価がなされる。



⑥インターンシップB(3・4年次生)

- a) ITサポート:初めてのパソコン講座(入間市在住市民を対象としたパソコン初心者講座。教材作成、授業運営など学生が自主的に運営)、小学校におけるパソコン授業のサポートを行う。
- b) 学生によるリサーチ:製品開発プロジェクト(地域企業が開発した製品のモニタリング、商品化)、入間市消費動向調査
- c) 入間ケーブルテレビの番組制作:月に2本の30分番組の制作
- d) FM茶笛での番組制作:月に1度の15分番組の制作
- e) プラネタリウムの番組制作

(2) キャリア教育科目

キャリア教育科目は、本学の専任教員と地域人講師団が協働して、2年次に「キャリアデザイン」、「ライフプランニング」、「経済Today」、3年次より「キャリアディベロップメント」、「キャリアマネジメント」、「金融Today」と学生の発達段階に応じて展開される。

①「キャリアデザイン」(「人生と職業Ⅰ」)

キャリア設計の基礎を学ぶ導入講義であり、専任教員が各学部の特徴を活かした「企業分析」、「企業へのアピール」、「自己分析」から構成し、地域人講師団による講義、就職センター職員による就職支援及びインターンシップ体験報告等を付加して実施している。

②「ライフプランニング」(「人生と職業Ⅱ」)

人生の目標を実現するためには人生設計が必要であり、そのためにはお金の裏付けは不可欠である。このような観点から、経済学・金融の専門知識を有していなくてもキャリア設計を考える動機付けを目的としている。

③「キャリアディベロップメント」(「人生と職業Ⅲ」)

「キャリアデザイン」の教育内容を演習形式で、双方向的、実践的、発展的に展開する授業である。実践的就職力アッ

プのために3種類の内容(「自己分析と社会・仕事との関連付け」、「ディスカッションを通じた相互理解」、「一般常識の涵養」)から構成されている。

④「キャリアマネジメント」(「人生と職業Ⅳ」)

「キャリアデザイン」、「キャリアディベロップメント」で習得したキャリア構築の考え方、基礎知識、能力を踏まえて「学んできたこと」と「業種」との関連付け能力を育成し、キャリアの自己管理能力を履修者が身に付けるようにする。地域企業の経営者と担当教員、更に学生を交えたトークセッションも組み込み、キャリアを自らマネージすることの意味を学生に納得させることを目的とする。

⑤「経済Today」

専任教員1名がコーディネーターを務め、地域人講師5名が2～3回の授業を担当し、現代の経済社会の抱えている問題をトピックで考えることを目的とする。

⑥「金融Today」

地元金融機関である飯能信用金庫とのパートナーシップ協定に基づき、現役行員による寄附講座として、金融界が抱える現代の問題を考えることを目的とする。

(3) ゼミナール

1～4年次生の少人数ゼミナールは全ての学部で必修科目であり、学生の発達段階に応じて開設され、全て専任教員が担当してきめの細かい指導を行う。具体的には次のとおりである。



①1年次ゼミナール:入学直後の導入教育として文章特性技法に関する指導を主としているが、学生カードの記入・キャリア設計指導及び基礎学力試験(国語・数学・英語の3科目)の返却と解説・指導を行う。

②2年次ゼミナール:自己表現力及びプレゼンテーション力の養成を主としているが、1年次に引き続いて、基礎学力試験(国語・数学・英語の3科目)の返却と解説・指導を行う。

③3年次ゼミナール:専門的基礎能力を涵養し、問題発見・解決能力、専門分野と社会との関係について議論し、ディスカッション能力等応用的社会的能力を育成する。また2年次に受検した基礎学力試験(SPI模試)の返却・指導を行う。また、就職センターと協働して、適職支援プログラム(R-CAP)の結果を基にキャリア設計指導も行う。

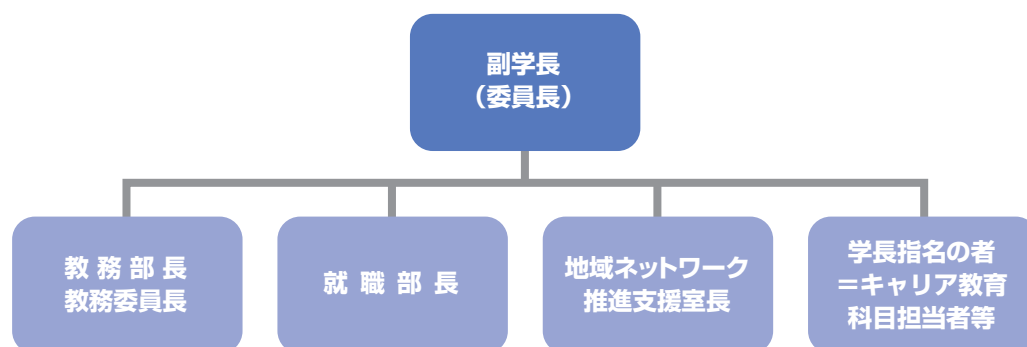
④4年次ゼミナール:卒業論文指導を中心に問題発見・解決能力、論理性・構想力等を養うと同時に就職センターと協働して継続的に学生をフォロー・アップしている。

3 実施・評価体制

(1) キャリア教育実施委員会

「地域とゼミによる総合的キャリア教育」の取組を運営する組織として、副学長を委員長として、「教育」、「就職」、「地域」の3本の柱、つまり全学教務委員会から教務部長

及び各学部教務委員長、就職部長、地域ネットワーク推進支援室長に学長が指名するキャリア教育科目担当者等を加えて「キャリア教育実施委員会」を構成している。



(2) 地域雇用促進協議会

本取組が実践するキャリア教育は、地域の教育力を活用して地域社会の中核を形成する人材の育成、最終的には地域雇用の創造を目的としている。こうした趣旨に賛同する産官学団体、すなわち、埼玉県中小企業家同友会、飯能市役所、入間市役所、飯能商工会議所、入間商工会、西武文理大学、城西大学、尚美学園大学の有志教員から埼玉県地域雇用促進協議会を発足し、埼玉県西部産業労働センター、狭山市、所沢市、埼玉県西部地区の商工会議所及び青年会議所等の後援も得て、平成18年10月には所沢市民文化センター、平成19年6月には川越プリンスホテル、同年11月には所沢くすのきホールにて「埼玉県西部地域合同企業説明会」を開催して学生の就職支援にも寄与している(平成18年10月=37社、学生160名参加、平成19年6月=57社、学生273名参加、11月=71社、学生252名参加)。



(3) 「地域とゼミによる総合的キャリア教育」評価委員会

本取組に対する評価は、駿河台大学学内委員4名(全学教務委員会1名、就職センター1名、地域ネットワーク推進支援室1名、学生参加による〈入間〉活性化プロジェクト実行委員1名)、学外3名(地域人講師2名、学識経験者1名)の計7名で構成する「地域とゼミによる総合的キャリア教

育」評価委員会が年度末に年度計画の達成状況について検証し、学長に報告する。また、平成21年度末には、平成19年度～21年度の3年間について総括して学長に報告するとともに、報告書を作成して関連各部署に配布・公表する。

ACCESS GUIDE

アクセスガイド

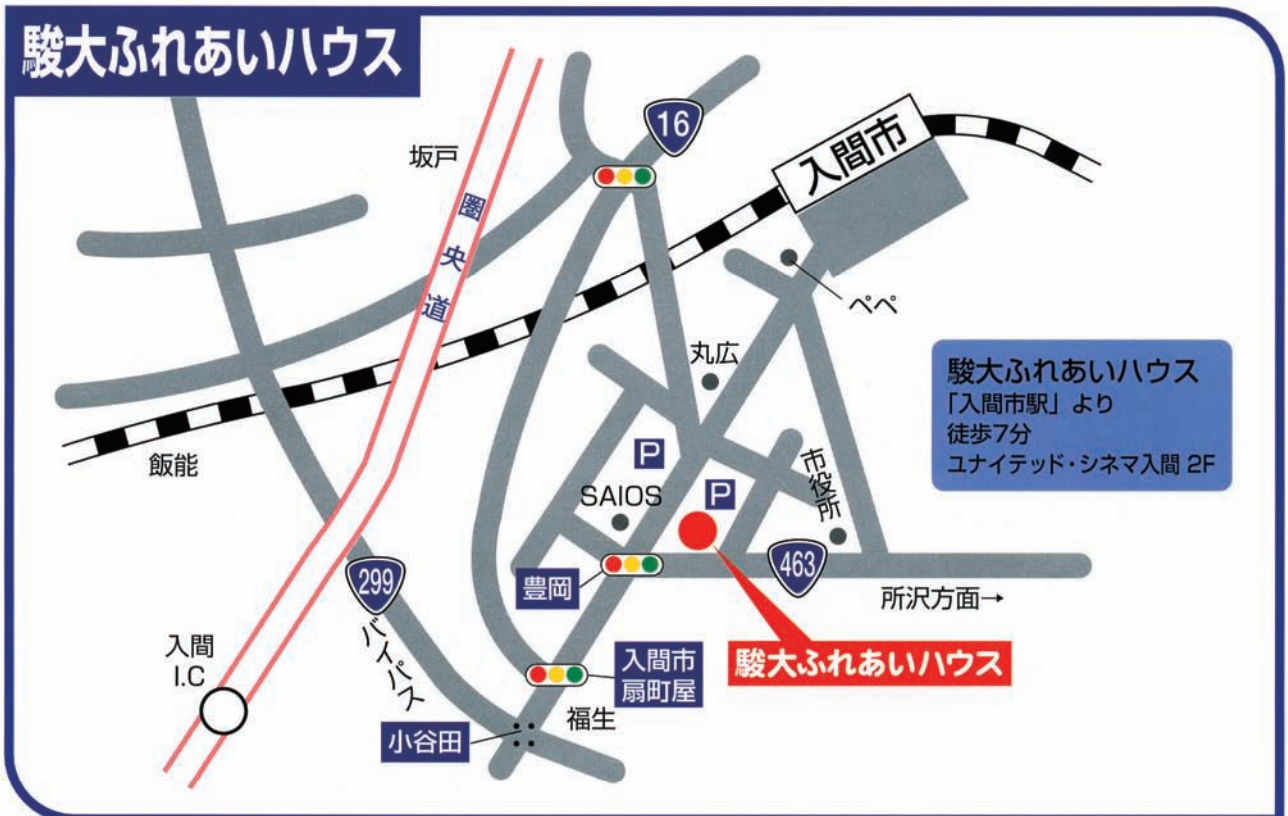


駿河台大学

〒357-8555 埼玉県飯能市阿須698

TEL 042-972-1218 地域ネットワーク推進支援室

(パソコン) <http://www.surugadai.ac.jp/> (ケータイ) <http://www.surugadai.ac.jp/m/>



駿大ふれあいハウス

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡1-11-5 ipotビル 2F

TEL・FAX 04-2966-5767

通常10:00~19:00 (木曜日休み)